

令和 2 年度児童生徒の問題行動・不登校等（鹿児島県公立学校）の状況について

令和 3 年 10 月 6 日
義務教育課・高校教育課

学 校 数：小学校 502 校，中学校 213 校，高等学校 71 校，特別支援学校 16 校 計 802 校
 児童生徒数：小学校 88,893 人，中学校 42,665 人（小学校，中学校には義務教育学校を含む。）
 高等学校 30,412 人（全日制 28,632 人 定時制 159 人 通信制 1,621 人）
 特別支援学校 2,386 人
 計 164,356 人（R 2. 5. 1 現在 学校基本調査）

1 いじめの状況

<いじめの認知件数>

(単位：件)

校種 年度	鹿児島県（いじめの認知件数）					全 国		
	H 2 9	H 3 0	R 1	R 2	前年比較	R 1	R 2	前年比較
小学校	3,509	5,436	7,794	6,470	-1,324	479,447	416,861	-62,586
中学校	1,214	1,540	1,925	2,196	+271	102,738	78,537	-24,201
高等学校	620	612	506	482	-24	13,918	10,238	-3,680
特別支援学校	35	28	34	23	-11	2,963	2,203	-760
合 計	5,378	7,616	10,259	9,171	-1,088	599,066	507,839	-91,227

- いじめの認知件数については，前年度より全国（15.2%減），本県（10.6%減）ともに減少しているが，本県ではいじめを認知した学校（いじめの認知件数が1件以上となった学校）は，小学校 82.5%（26 校増），中学校 82.6%（15 校増），高等学校 85.9%（増減なし），特別支援学校 50%（1 校増）と全体的に増加しており，各学校におけるいじめの認知の取組は広がってきている。
- いじめの重大事態は3件（国公立を含む全国平均 10.9 件）であり，前年度より1件減少となっている。
- いじめの解消率は 83.4%（国公立を含む全国平均 77.4%）で，前年度の 89.5% からやや減少している。
- いじめ発見のきっかけは，前年度同様「アンケート調査など学校の取組により発見した。」が最も多く 54.2%，次に「本人からの訴え」19.1%，「学級担任が発見した。」13.7%の順となっている。
- いじめの態様は，前年度同様「冷やかしかからかい，悪口や脅し文句，嫌なことを言われる。」が最も多く 64.5%，次に「軽くぶつかられたり，遊ぶふりをしてたたかれたり，蹴られたりする。」18.4%，「仲間はずれ，集団による無視をされる。」14.0%の順となっている。なお，「パソコンや携帯電話等で，ひぼう・中傷や嫌なことをされる。」については，前年度と比べて，全国では 2.8% から 3.5% に，本県では 1.8% から 2.8% に増加している。
- いじめの認知件数が減少したことについては，新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い生活環境が変化し児童生徒の間の物理的な距離が広がったこと，日常の授業における活動や学校行事，部活動など様々な活動が制限され，子供たちが直接対面してやり取りをする機会等が減少したことなどが影響したと考えられる。

2 不登校の状況

<不登校児童生徒数>

(単位：人)

校種 年度	鹿 児 島 県					全 国			
	H 2 8	H 2 9	H 3 0	R 1	R 2	前年比較	R 1	R 2	前年比較
小学校	307 (0.34)	294 (0.33)	427 (0.47)	466 (0.52)	595 (0.67)	+129	52,905 (0.8)	62,862 (1.0)	+9,957
中学校	1,408 (3.16)	1,369 (3.14)	1,496 (3.48)	1,511 (3.54)	1,671 (3.92)	+160	122,519 (4.1)	127,671 (4.3)	+5,152
高等学校	657 (2.09)	718 (2.30)	756 (2.47)	726 (2.43)	723 (2.51)	-3	37,692 (1.8)	32,127 (1.5)	-5,565
合 計	2,372 (1.43)	2,381 (1.45)	2,679 (1.64)	2,703 (1.67)	2,989 (1.86)	+286	213,116 (1.9)	222,660 (2.0)	+9,544

※ () は在籍率（不登校児童生徒数÷在籍児童生徒数×100）

- 不登校児童生徒数は、小学校で129人増加、中学校で160人増加、高等学校で3人減少となっている。
- 不登校の主たる理由を校種別に見ると、前年度同様、小学校では「無気力・不安」が最も多く34.6%、次に「親子の関わり方」19.2%、「生活リズムの乱れ、あそび、非行」18.0%の順となっている。中学校では「無気力・不安」が最も多く41.4%、次に「いじめを除く友人関係をめぐる問題」16.7%、「生活リズムの乱れ、あそび、非行」9.2%の順となっている。高等学校では「無気力・不安」が最も多く30.3%、次に「いじめを除く友人関係をめぐる問題」13.7%、「入学、転編入学、進級時の不適応」13.6%の順となっている。
- 不登校児童生徒数の増加については、不登校児童生徒が学校以外の場において行う多様で適切な学習活動の重要性や児童生徒の休養の必要性等を示した「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」の趣旨の浸透の側面も考えられるが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う生活環境の変化により生活リズムが乱れやすい状況や、学校生活において様々な制限がある中で交友関係を築くなど、登校する意欲が湧きにくい状況にあったこと等も背景として考えられる。

3 暴力行為の状況

<暴力行為発生件数>

(単位：件)

校種	年度	鹿 児 島 県				前年比較	全 国		
		H 2 9	H 3 0	R 1	R 2		R 1	R 2	前年比較
小学校		6 (0.07)	30 (0.33)	41 (0.46)	63 (0.71)	+22	42,548 (6.8)	40,292 (6.5)	-2,256
中学校		42 (0.96)	48 (1.12)	102 (2.39)	153 (3.59)	+51	27,120 (9.1)	20,509 (6.9)	-6,611
高等学校		65 (2.08)	63 (2.06)	54 (1.72)	56 (1.84)	+2	4,564 (2.1)	2,790 (1.3)	-1,774
合 計		113 (0.69)	141 (0.85)	197 (1.2)	272 (1.68)	+75	74,232 (6.5)	63,591 (5.6)	-10,641

※ 暴力行為とは、「対教師暴力」「生徒間暴力」「対人暴力」「器物損壊」を合わせた件数

※ ()は、1,000人当たりの発生件数(発生件数÷在籍児童生徒数×1,000)

- 暴力行為の区分を校種別に見ると、小学校では、対教師暴力が14件(+9)、生徒間暴力が45件(+13)、対人暴力が0件(-1)、器物損壊が4件(+1)であった。中学校では、対教師暴力が7件(-9)、生徒間暴力が117件(+53)、対人暴力が0件(-3)、器物損壊が29件(+10)であった。高等学校では、対教師暴力が3件(+2)、生徒間暴力が35件(-5)、対人暴力が3件(+3)、器物損壊が15件(+2)であった。
- 本県の発生件数は全体で75件増加しているが、同一児童生徒が複数回暴力行為を行っており、暴力行為を行った児童生徒の数は全体で13人減少している。

4 高等学校中途退学者数等の状況

<中途退学者数>

(単位：人)

年 度	H 2 9	H 3 0	R 1	R 2	前年比較	全国(R2)
中退者数	247 (0.8)	244 (0.8)	245 (0.8)	215 (0.7)	-30	20,283 (1.0)

※ ()は、在籍率(中途退学者数÷在籍生徒数×100)

- 退学の主な理由は「進路変更」が最も多く50.7%、次に「学校生活・学業不適応」が28.8%、「病気・けが・死亡」が7.4%となっている。

5 自殺の状況

<自殺した児童生徒数>

(単位：人)

年 度	H 2 9	H 3 0	R 1	R 2	全国 (R 2)
人 数	4	3	6	5	415

※ 全国は国公立を含む。